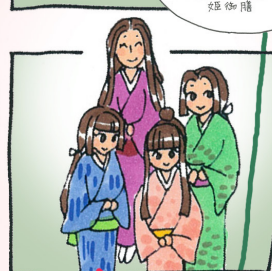


戦国時代を
生きた
ヒロイン

お市の方の娘 お江



かつての北国街道沿いの商店街。北国街道は、勝家公、系守城、康築城の北、左城の外側に位置し、お江もこの道を歩いたかもしれません。



さら通り
片町通り
朝倉氏が滅んだ後、勝家公が一乗谷の職人などを城下に住ませた町です。町名は一乗谷から由来しています。



福井城にあった北外堀の門の一つ。古くは「江戸町口御門」とも呼ばれていました。現在の宝永3、4丁目あたりを江戸町といひ、お江の娘、勝家姫が松平忠直公に嫁ぐのにあわせ江戸から勝家姫と共に来た侍たちが住んだことから江戸町と呼ばれました。



中央大通り
羊木
九十九橋

勝家公が架けたと言われる、北国街道が足羽川を渡る橋。当時、足羽川に架かる唯一の橋で、お江もこの橋をわたって北在に入ったと考えられます。



響のホール
10歳のお江が姉たちと遊んだらう北在城。現在は、お江の養父にあたる柴田勝家公を祀る神社になっています。境内には茶々・お初・お江の三姉妹を祀る三姉妹神社と勝家公と母のお市の方の金同像も。

お江(ごう)

お江は、柴田勝家の妻のお市の方、勝家に嫁ぐ前の夫だた浅井長政との間にもらった3姉妹の末子です。母・お市の方の兄である織田信長に浅井氏が「威嚇」され、お市の方や姉とともに織田家に引き取られます。信長が七になると今度は北の左の柴田勝家に嫁いだ母のお市の方とともに、半年余りを北の左で暮らします。成人後、徳川家康の三男で、のち2代将軍となる徳川秀忠に嫁ぎ、3代将軍となる徳川家光をはじめ2男5女をもらいます。そのうちの1人、三女の勝家姫は福井藩第2代藩主・松平忠直の正室に。絶世の美女といわれた母・お市の方の美貌を受け継いだ「美女」といわれたお江にとって福井は母のお市の方と同様に、つながりも深いのです。

